

日本胎児心臓病学会スクリーニング委員会
福岡市, 九州地区アクションプラン

福岡市立こども病院胎児循環器科

漢 伸彦



福岡県内の周産期医療体制

県内の周産期医療システム

- ・福岡, 北九州, 筑後, 筑豊の4地区に分類
- ・各地区に総合周産期センターが整備
- ・筑豊除く3地区に胎児心エコー専門施設

分娩数と施設

- ・多くは産科1次施設で妊婦健診と分娩
- ・出生数は10年間で 3.5 %程度減
年間4.7万→3.2万人
福岡地区以外が大きく減少



	2014年	2024年
福岡県	4,7000	3,2000
福岡市	1,4000	1,2000

福岡市医療圏の現状 福岡市, 糟屋, 筑紫, 糸島

- ・福岡地区の出生数は約17000人で、県全体の半数近くを占める。
(福岡市12000人、糟屋地区2500人、筑紫地区3600人、糸島650人)
- ・一次施設から、二次・三次施設まで多くの周産期施設あり。
- ・分娩を取り扱う施設では胎児心エコー検査が実施されている。

* 胎児診断率改善には、集約化ではなく、医師と技師の技術が向上すること

~~2024年に胎児心エコー検査についてアンケート調査を実施 (回答率55%)~~

- ・胎児心エコー検査のタイミング、回数は施設により差が大きい
- ・技師による検査は全体の10%以下で多くは産科医師が実施している。
- ・胎児心エコー検査について以下のリクエストあり。
 - ① 胎児心エコーに関するセミナーや手技を訓練できる環境整備
 - ② 気軽に二次スクリーニング施設に紹介できる体制
 - ③ 妊婦全員をスクリーニングする施設やシステムの構築



福岡市立こども病院のアクション

産科1次施設から紹介しやすいシステムの整備

- ・胎児心疾患を担当する胎児循環器科を開設
- 予約方法と外来診療は産科外来と同じ
- 胎児心臓専門外来は月・水・木・金午後
- 事前の専門医への連絡は不要



胎児心エコーに関する教育システムの整備

- 2ヶ月毎に紹介症例の報告と勉強会を開催
- ファントムを使ったハンズオン指導
- 胎児心エコー専門医目指す医師の受け入れ

NICU入院例の胎児心断率は60%，重症例では70%程度に改善

九州山口地区での重症胎児心疾例の周産期管理

- 当院は重症心疾患症例を九州山口地区全域から受け入れている。
- 他県例では、心疾患の重症度に応じて分娩施設を調整している。
- 胎児診断率が上がることで、九州山口地区の周産期病床を効率良く運用できる。



各地区の周産期センター

**母体搬送→当院で分娩
新生児期に外科治療が必要**
総肺静脈還流異常、大血管転位症
大動脈狭窄伴う心疾患
大動脈縮窄/離断、左心低形成症候群等

**紹介元で分娩→当院へ転院
新生児期以降に外科治療が不要**
肺動脈狭窄伴う心疾患
ファロー四徴症、三尖弁閉鎖等
心内短絡のみ
心室中隔欠損、房室中隔欠損

福岡市立こども病院



九州山口地区のアクション

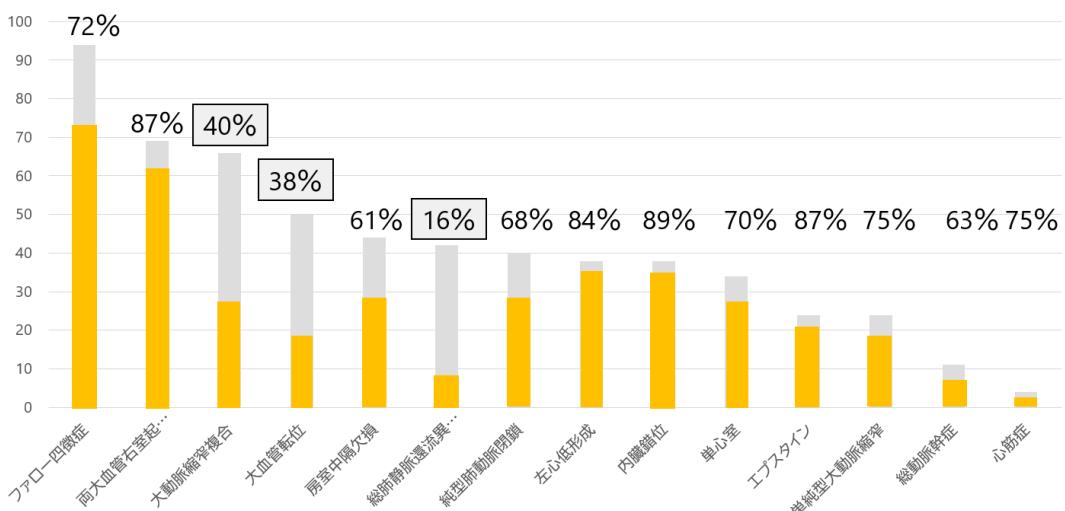
九州山口胎児心臓研究会の開催

2018年に結成して定期的に研究会を開催
毎年2回、各県持ち回り

第1部 主催県からの症例報告

第2部 スクリーニングに関する教育講演

・九州山口地区の胎児診断率 64%



第9回 九州山口胎児心臓研究会

「初心忘れるべからず」

日 時：2024年12月7日(土) 14:00-17:00
会 場：九州大学病院ウエストウイング棟 臨床大講堂
(現地開催のみ)
参加費：1000円 (現地現金支払のみ)

14:00～14:05 開会挨拶 永田 弾 先生 福岡市立こども病院

14:05～14:50 第一部：症例報告

座長 土井 宏太郎 先生 宮崎大学病院 産婦人科
コメンテーター 川村 順平 先生 鹿児島大学病院 小児科
北代 祐三 先生 福岡市立こども病院 産科

演題1 「血管輪の胎児診断例」
古賀 恵子 先生 福岡市立こども病院 検査部
演題2 「胎児水腫を来たした胎児心室瘤の一例」
寺師 英子 先生 九州大学病院 小児科
演題3 「ナゾメグ肺を来たした胎児HLHS」
鈴木 彩代 先生 福岡市立こども病院 循環器科

14:50～15:10 製品紹介 (GEヘルスケア・ジャパン)

15:10～16:25 第二部：特別講演 (専門医単位付与)

座長 杉谷 雄一郎 先生 JCHO九州病院 小児科
コメンテーター 前野 泰樹 先生 聖マリア病院 新生児科
漢 伸彦 先生 福岡市立こども病院 胎児循環器科

講演1 「胎児の脈診」
寺町 陽三 先生 久留米大学病院 小児科

講演2 「胎児心エコーの基本view」
新谷 光央 先生 浜松医科大学 産科婦人科

16:25～16:55 第三部：研究会からのご報告

座長 永田 弾 先生 福岡市立こども病院 循環器集中治療科
「九州における重症先天性心疾患の胎児診断」
北代 祐三 先生 福岡市立こども病院 産科
永田 弾 先生 福岡市立こども病院 循環器集中治療科

16:55～17:00 閉会挨拶 西島 信 先生 鹿児島生協病院 小児科

参加者には下記単位が付与されます
・日本専門医機関 学術集会参加 (1単位)
・日本専門医機関 講師人材認定講習 (1単位)
(第二部講演をすべて視聴された場合に限る)



現状と課題

- 受け入れ体制の整備やカンファレンス等の教育機会の提供により福岡地区のみでなく、九州山口全体の胎児診断率は大きく改善した。
- 福岡、九州山口地区の課題
 - ① 施設や地域により胎児診断率には大きな差がある。
 - ② 総肺静脈還流異常、大血管転位症、大動脈離断症の胎児診断率は低い。
- 単施設では限界があり、地域の胎児心エコー専門施設が連携が必要
 - 普及が遅れている地域へのプッシュ型サポート
 - 診断率低い疾患にターゲット絞った指導方法の開発
 - 複数の指導医によるハンズオン講習会の実施
 - 胎児心エコー専門医を目指す医師の受け入れ

